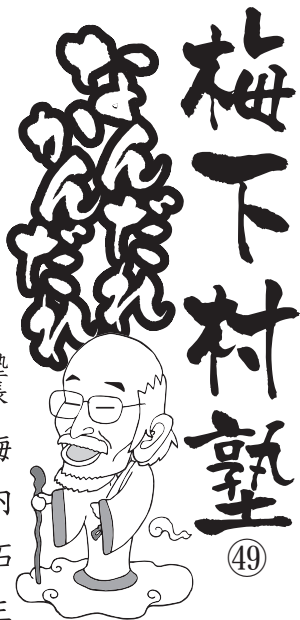


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内拓生

(由らしむべく知らしむべからず)

川柳自選句 盛町 木村自然児 (平成5年)

「限界を悟ればこんな
に湧くよゆう」

「交際費日ごろ飲めな
いものを飲み」

「交際費使えるうちが
花と知り」

6月27日と29日の「世迷言」は社会保障と税の改革法案と小沢グループの政局運動と増税、税収、景気の関係に関する見解が載っている。

この世迷言には郷土が送りだした政治家である小沢一郎氏への期待はずれと不信がにじ

み出ているようだ。小沢氏は四十歳代で自由民主党幹事長、そして有力な首相候補として、田中角栄政治グループの期待の星として活躍してきた。政治家の毀誉褒貶は常なるものであるが、田中角栄氏には列島改造、中国との国交交渉など手にした政治力を使って、日本の政治が目指す方向が明らかなのがあった。

小沢氏は政治権力を手中に収めることは学んだだけで、その力を何のために使うのかを学ばなかったようである。(由らしむべく知らしむべからず)これが小沢氏の権力獲得技術の骨格である。これは中央による地方の支配と収奪の構造であ

る。この中央による支配と収奪に苦しんできた地方の代表として送りだされた者が中央の権力の甘い汁にどっぷりとおつかって(初心?)を忘れたともいえる。

(偶然と必然)

木村自然児の川柳は(由らしむべく知らしむべからず)に愛しむべからず、世界を詠んでいるものと思われる。

(偶然)

東海文芸 詩 偶然 田端五百子(あかね詩の会) 7月3日から抜粋

先生との出会いは鄙びた蕎麦屋の一角での偶然からであった町内の高名な先生との認識しか持ち合わせていなかったのに

うごくに尽きる。選挙においては「マニフェスト」に何を盛り込むかが選挙のキーポイントとなる。

前回の「小沢元代表、野田首相、輿石幹事長」が率いた民主党のマニフェストは選挙民の心を惑わすものであったから、手形を使って惑わしたことになる。選挙の偶然性から勝利の必然性を導いたことである。

(地域文化は世界とをむすぶ)
「鹿踊り すすきは世界を かけめぐる詠み人知らず」

6月29日の第3面に「笹崎鹿踊が舞台を披露 新装束を身に付け 神戸で舞いを披露する保存会メンバー」が掲載されている。

東日本大震災では世界の多くの国から救助支援の手が伸びてきた。世界の国々は、被災した東北の人々の忍耐力と規律ある行動に大きな感動を覚えたことはいろいろ報道されている。

震災から一年半が過ぎていく。世界は東北の規律ある忍耐を示した文化の力が、どのような地域社会を復興させるのかをかたずをのんで待ち望んでいる。これに関する記事は、6月30日の第4面の梅下村塾(48)は「森と水と命の惑星」国際会議「地域と世界の心と魂を詠む」に掲載されている。

7月1日の世迷言は「参院のドン」と「鈍」と「小沢元代表、野田首相、輿石幹事長」との関係を描いている。その根底は既得権益を手放したくないとい